

関本至先生追悼

関本至先生は1993年5月1日ご逝去され、その80歳のご生涯をとじられました。広島市五日市町の品正寺で行われたご葬儀は参列者の誰もが感じたように先生のお人柄にまことにふさわしく簡素で厳粛かつ心のこもったものでした。その葬儀の後、お棺を火葬場へとお供してお送りした後、敬愛した恩師をなくしたことによる深い悲しみから長い間立ち直れないでいました。一周忌をもうすぐ迎えようとする今、追悼文をしたためようといたしますと、その悲しみがまたどっと押し寄せてまいります。

先生のご尽力により1989年広島県の地にギリシア語・文学研究会を興すことができ、私たちにギリシア文学を愛する同好の士が集う場を切り開いてくださいました。

そして1990年の第2回研究発表会では自ら「ヴィジニノースについて」という題目で研究発表をして下さいました。その数年まえからお身体の具合を悪くされ入院と自宅療養をくりかえしておられただけに、その研究発表の内容の斬新さと深さには、強く心を打たれ感動いたしました。その時の録音テープを人から譲り受けそれを一人で聞いていますと、自然に涙が溢れてまいります。

また1992年7月5日に駐日ギリシア大使コンスタンディノス・ヴァシス氏をお迎えして開催した第4回研究発表会では、その直前まで病に伏しておられたにもかかわらず奥様とご一緒に出席され、会の最後まで傾聴されました。その毅然とした真摯なお姿を思いおこすたび毎に、自然と頭が下がります。

関本先生は、すでに1952年に「現代ギリシア語の正書法について」という表題で『天理大学学報』に論文を書いておられることから分かるように、早くから、現代ギリシア語・文学に興味と関心を持たれ、そのすぐれた語学研究と文学の翻訳によって、後進の者たちによき範を垂れて下さいました。

『現代ギリシア語文法』（泉屋書店）1968年は、その的確な文法記述と豊富な例文によって、現在も現代ギリシア語を学ぶ学生の必読の書となっています。

『西洋古典学研究』、『言語研究』、『方言研究年報』、『広島大学文学部紀要』などに掲載された諸論文を1987年に『現代ギリシアの言語と文学』という一冊の本にまとめられて、溪水社から出版されましたが、それらをおらためて読みなおしてみますと、その関心領域の広さにまず驚かされます。

そして問題点的に的確な把握の仕方と言語学者としての科学的な精密な分析の仕方は読む者をして、襟を正させる思いがします。

1980年には、溪水社から『現代ギリシア短編小説選集』を出版され、巻末の作者紹介によって、近代ギリシア文学への展望を日本の読者に与えてくださいました。そこで扱われている作家は今世紀初頭のヴラホヤーニス、20年代のパナヨト・プロス、30年代の諸作家、サマラーキスなどの戦後の作家などまさに多岐にわたっています。そして何回でも読み直したくなる、味のあるそして深みのある訳文によって、幾多の現代ギリシア文学愛好家を育てられました。

『ギリシア散策』（溪水社）1989年の中に掲載されている「マクリヤーニス将軍とその二つの遺稿」という論文はΜακρυγιάννηςの'Απομνημονεύματα『回顧録』と'Οράματα καὶ θάματα『幻想と奇蹟』の研究が現代ギリシア語の民衆語の発展解明研究のために非常に重要であることを私たちに教えてくださいました。

関本至先生は晩年の最後の最後まで学究徒としての姿勢を崩されず、私たちを導いてくださいました、本当に偉大な恩師でした。

ここに先生のご略歴と主要著作等目録を記し恩師の遺志を受け継ぎ、この会の発展とその機関誌『プロピレア』出版の継続と発展に鋭意努力することを心にかたく誓いつつ筆をおきたいと思います。

心からご冥福をお祈りします。

合掌。

1994年3月9日

竹島俊之

略歴と主要著作等目録
(ギリシア語・文学に関係するものに限定する)

略 歴

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 1942年 9月 | 京都帝国大学文学部言語学選科終了。 |
| 1942年 10月 | 京都帝国大学文学部教務嘱託(言語学研究室) |
| 1944年 8月 | 満鉄東亜経済調査局(印度班)勤務。 |
| 1946年 4月 | 亜細亜文化研究所勤務。 |
| 1947年 4月 | 天理語学専門学校講師。 |
| 1948年 4月 | 同上教授。 |
| 1949年 4月 | 天理大学助教授。 |
| 1952年 11月 | 広島大学助教授(文学部、言語学)。 |
| 1958年 6月 | 同上教授。 |
| 1976年 4月 | 同上定年退職。 |
| 1976年 4月 | 広島大学名誉教授。 |
| 1976年 4月 | 広島文教女子大学教授。 |
| 1987年 3月 | 同上定年退職。 |

I 著 書

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1.『現代ギリシア語文法』(泉屋書店) | 1968年 |
| 2.『現代ギリシア短編小説選集』(溪水社) | 1980年 |
| 3.『現代ギリシアの言語と文学』(溪水社) | 1987年 |
| 4.『ギリシア散策』(溪水社) | 1989年 |

II 論 文

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| 1.「現代ギリシア語の正書法について」『天理大学学报』第3巻第3号 | 1952年 |
| 2.「現代ギリシア語の特徴とその発展傾向」『広島大学文学部紀要』第5号 | 1954年 |

3. 「近代ギリシア語の語頭母音の脱落について」『西洋古典学研究』Ⅱ
1954年
4. 「ビザンティン文学序説」『広島大学文学部紀要』第7号
1955年
5. 「現代ギリシア語の完了形」『言語研究』第30号
1956年
6. 「近代ギリシア語における外来語」『広島大学文学部紀要』第17号
1960年
7. 「ギリシアの言語地理学」『方言研究年報』第3巻
1960年
8. 「現代ギリシアの言語問題—とくに"福音書事件"を中心に—」
『西洋古典学研究』XⅠ
1963年
9. 「Analogyの基底となる形—その計量的考察の—事例—」
『広島大学文学部紀要』第22巻3号
1963年
10. 「現代ギリシア語におけるトルコ語よりの借用語」
『広島大学文学部紀要』第25巻第2号
1965年
11. 「現代ギリシア語における英語からの借用語」『広大言語』第6号
1966年
12. 「現代ギリシア語名詞句の構造」『広島大学文学部紀要』第28巻2号
1968年
13. 「キプロス島の言語—とくにその民衆詩を中心に—」
『方言研究年報』第13巻
1970年
14. 「『ゆれ』の現象—現代ギリシア語の動詞1人称複数語尾を中心に—」
『広島大学文学部紀要』第31巻2号
1972年
15. 「現代ギリシア語における重叙表現」『広島大学文学部紀要』第35巻
1976年
16. 「スキアソス島の方言—現代ギリシア方言の—考察」
『藤原先生古希記念論集—方言学論集—』（三省堂）
1981年
17. 「現代ギリシア方言に見る諺の修辞法」古田敬一編『レトリックと文体
—東西の修辞法をたずねて—』（丸善）
1983年
18. 「現代ギリシア語における文末部」
『主語類型論と文末詞』編者 藤原与一（三弥井書房）
1993年

Ⅲ 小論・研究ノート

1. 「ギリシアの言語問題—純正語と民衆語—」
『毎日新聞』1967年9月26日
1967年

2. 「動詞の格支配について —現代ギリシア語を例として—」
『ニダバ』第1号 1972年
3. 「辞書にないギリシア語」『ニダバ』第3号 1974年
4. 「現代ギリシア語方言研究の現状」『日本の言語学6月報』（大修館）
1978年
5. 「現代ギリシア文学とギリシア民族の歴史」『プラティア』第10巻
1985年
6. 「カヴァフィス覚書」『ももんが』30/12 1986年
7. 「スミルナの悲劇」『プラティア』第11巻 1986年
8. 「ヴィジノースについて」『プロピレア』第2巻 1991年

IV 書評・紹介

1. 「Δημητράκος: Μέγα Λεξικὸν τῆς Ἑλληνικῆς Γλώσσης」
『西洋古典学研究』V 1957年
2. 「Hans Jacob Seiler, L'aspect et le temps dans le verbe neo
grec」『言語研究』第26,27合併号 1958年
3. 「知られざる文学—現代ギリシア詩—」『毎日新聞』1963年11月24日
1963年
4. 「詩書二巻」『廣大言語』第4号 1964年
5. 「現代ギリシア語の文法書と辞書」『学燈』第66巻2号 1969年
6. 「現代ギリシア語への手引き」『ニダバ』第4号 1975年
7. 「Ε.Κριαράς: Λεξικὸ τῆς Μεσαιωνικῆς Ἑλληνικῆς Δημώδους
Γραμματείας, 1100-1669」『西洋古典学研究』XXX 1982年

V 翻 訳

1. カラガーツィス: 「霧のウォピンで」『世界文学体系』93(筑摩書房)
1965年
2. 「現代ギリシア民話《双子の兄弟》他8篇」
『世界の民話』9(ギリシア・トルコ・地中海)研秀出版 1979年
3. 『現代ギリシア短編小説選集』溪水社 1980年

VI 研究発表

(講演、放送を含む)

1. 「現代ギリシアの言語問題」日本西洋古典学会13回大会 1962年10月
2. 「随想—セフェリスの受賞によせて—」ラジオ中国婦人ジャーナルの
時間、放送 1963年11月13日
3. 「近代ギリシア語研究の問題点」第63回日本言語学会大会(九州大学)、
公開講演 1970年11月
4. 「憲法と言語」広大言語学会、講演 1975年7月6日
5. 「公用語と汎用語」西日本言語学会、講演 1975年9月20日
6. 「詩のリズム」西日本言語学会、公開講座 1975年11月15日
7. 「ギリシアと私」東京ブリジストン美術館土曜講座 1982年3月